

# NATURAL VOICE

エール学園支部

新しい時代の  
希望を 1

やがて春風が吹くように・・・さつぷのA&Yでいこう!

非常勤講師、職員のみなさま、ひさしぶりのエール学園支部ニュース発行です。さぼって遊んでいた？ いえいえ！ 激動の時代の新たな舵取りを企図して、熟慮していた・・とまでいうと格好つけ過ぎですね。しかし、政府が昨年1月に打ち出した留学生30万人計画はどうなる？ 不安定な日本語学校の経営と日本語教師の待遇条件はどうしたら、改善できる？・・日本の大学をみざす留学生のニーズに大学教育は十分こたえられるの？ そもそも日本社会は外国人をそんなにうまく受け入れられるの？・・・

.....などなど職場や労働組合の枠を超えた問題にも目を向けてようと、黙々と動いておりました。この1年は本当に変動の大きい年でしたね。四川大地震、中国でのオリンピック、金融経済システムの危機、イスラエルのガザ攻撃、オバマ米新大統領の誕生と世界中が注視するできごとが連続しました。特に「経済恐慌」ともいえる金融システム崩壊は政治体制・雇用構造・社会関係各層のひずみも一挙に表面化させ、その影響は一層拡大しています。だれもが未来への不安と厳しい現実を口にしています。

通貨も株価も変動し、各国経済が悪化。現下の円高は留学生にも日本語教育関係機関にも少なからぬダメージを与えています。この波は私たちの仕事にも生活にも賃金にもすでにかぶさってきています。

でも、こういう時だからこそ、労働組合の真価が問われるときが来たと感じています。なぜって、ひとりひとりの生活と労働の権利を守ること、相互の信頼を大切に、それぞれの立場と行動に共感をもって連帯するということが労働組合の基本精神だからです。そういう倫理と労働観が社会の基礎となり、政治や経済活動の目標となって正しく機能すれば、だれもが安心できるからです。

日本語教育の社会的重要性はますます高まっています。ひとりで優秀な教師になることをめざすより、みんなで今の貧弱な待遇を改善して、安定した地盤作りをするほうがもっと豊かな日本語教育ができるはず。みんながそう思い、いっしょに動けば、社会の陽が当たり、寒風は春風に変わるでしょう。

それには A: あせらず、あわてず、あきらめない Y: 夢と勇気とユーモアをもって

エール学園支部 新美益子

**EWA** 大阪教育合同労組 本部 06・4793・0633 (FAX 0644 <http://www.ewaosaka.org>)

大阪府中央区北浜東1-17 日本ワードデータビル8F E-mail: [info@ewaosaka.org](mailto:info@ewaosaka.org)

団体交渉 08年7月2日(火) 18:15 - 19:15 エール1号館 2F 304号室

出席 学園側:3名 本部長 他2名

組合側:7名 本部 副執行委員長・支部 組合員6名

\*\*\*\*\*

議題 1 専任登録に関する事項・・・日振協・大阪府への専任登録は適正か。

2 業務分担の適正化について (1)専任の人数について・・・専任を増員してほしい。

(2)進路指導について・・・

(3)その他・・・個人別有給日数の連絡を。

3 その他継続中の事項

(1)退職金

(2)その他

確認事項 支部機関誌『Natural Voice』発行について

外部発行について学園は不問。

個人名は公表しない。

団交経緯は双方了解の上、掲載。

協議項目には注意を払う。

団体交渉 08年12月10日(水) 16:00 - 17:00 エール1号館 2F 304号室

\* 11月17日申し入れ、支部対応の予備交渉を経て、以下の交渉を行いました。

出席 学園側:1名 本部長

組合側:6名 本部 副執行委員長・支部 組合員5名

議題

【質疑・要望への学園回答】

1 非常勤講師の格付け見直し案

調整作業中。もう少し時間を要する

2 有給休暇の運用と支払い方法

今月中に適切な処理を進める

3 環境改善

備品など早急に対処する

4 講師全体会の運営

今後、適切な運営をする。

団体交渉 09年3月19日(木) 18:00 - 19:00 エール1号館 2F 304号室

出席 学園側:1名 本部長

組合側:6名 本部 副執行委員長・支部 組合員7名

議題

【質疑・要望への学園回答】

1 時間単価の一律4%引き下げを撤回すること・・・経営資料要求については持ち帰る

2 業務内容と担当者を整理し、業務を軽減すること・・・支部対応交渉で詰めたい

3 次年度講師契約について・・・計画策定中・次回交渉

4 その他

今回は支部会のレポートは割愛します。

# 変わる法律・変える法律

改正雇用保険法 09年4月施行予定

昨年来の雇用情勢の急激な悪化に伴い、3月末で40万人もの失業が予想される派遣労働者のため、政府が緊急にとりまとめた法案です。詳しくは次号で触れますが、その骨子のみ掲載します。非正規労働者、とくに非常勤講師は雇用保険加入率が低く、今後、私たちも加入の道を開きたいものです。

## 1 非正規労働者に対するセーフティネットの機能の強化

労働契約が更新されなかったため、離職した有期契約労働者について

受給資格要件を緩和：非保険者期間 12ヶ月 6ヶ月

給付日数を解雇等による離職者並みに充実（3年間の暫定措置）

雇用保険の適用基準である「1年以上雇用見込み」を「6ヶ月以上雇用見込み」に緩和し、適用拡大。

## 2 再就職が困難な場合の支援の強化

解雇や労働契約が更新されなかったことによる離職者について、年齢や地域を踏まえ、特に困難な場合に、給付日数を60日延長（3年間の暫定措置）

## 3 安定した生就職へのインセンティブ強化

早期に再就職した場合に支給される「再就職手当」の支給要件緩和・給付率の引き上げ（給付率 30% 40%または50%）

## 日本語教師の本棚

つかの間の春休み・・・みなさんは、どんな本を手にししましたか。

ミステリー小説『破裂』 kusakabne you 久坂部 洋 早川書房

医療裁判の困難さは、原告が素人であり被告が玄人である事である。専門的な用語を理解するだけでも相当の時間と理解力が必要である。だが、そこに同じ医者原告側につくとどうなるか。この物語は、医療裁判を横軸に、少子化・年金・安楽死など高齢化社会での問題を縦軸に、込み入った事件を挟みながら進行していく。事の発端はこうだ。元新聞記者のジャーナリストが、医療問題をテーマにし「痛恨の症例」取材する過程で、大学病院の麻酔医師江崎に突き当たる。自身も現在の医療のあり方に矛盾を感じていた江崎は、協力するようになる。そこに一つの許すべからざる事件が起こる。

僧帽弁置換術で手術した患者が5日後に急死した症例に、医療ミスだったという内部告発があった。患者の娘枝利子が裁判を考えるようになる。そこに江崎が協力を約束し、弁護士の露木とジャーナリストの松野の原告体制ができあがる。被告は大学病院のエリート助教授香村。

どんでん返し待ちかまえている裁判と、この香村が開発したペプチド療法を利用しようとする厚労省。その実質的導入企画者である佐久間が物語に参入してくる。このマキャベリー官僚の意図するところは、これからの超高齢化社会を是正するのにどのようにして、高齢者を満足に天国に導くか。副作用のあるペプチド療法による「ぼっくり死」を夢想するまでになる。

もう既に高齢化社会なのに、われわれは殆ど気づかない。身近に介護する対象が出てきて急に落ち着かなくなるのだ。この物語は、現場を知り尽くした医者作品であり、これからの医療や老人社会を俯瞰してくれる。一度でも親を介護したものなら、現在の医療制度の矛盾や不満に突き当たらないのは珍しいことである。普通の老人が、満足に畳の上で死ぬるためには何が、どう必要か。次の作品を心待ちにしている。

昨年秋より、経済情勢は暗雲が立ち込めていますが、下記のように次々に打ち出した留学生、外国人の受け入れ方針はその後、政府も経済界も方針を転換する姿勢はみせていません。先日、文科省は私立大学への交付金支給も発表しました。今後も多くの関連情報が流れることと思います。主なものを掲載していきます。

## 【政府】 1000万人移民受け入れ構想 日本を「移民国家」に...自民議連案

自民党の「外国人材交流推進議員連盟」(会長 = 中川秀直)は人口減少社会において国力を伸ばすには、移民を大幅に受け入れる必要があるとし、「日本の総人口の10% (約1000万人)を移民が占める『多民族共生国家』を今後50年間で目指す」との提言案を福田首相に提案した。(08・6)1000万人規模の移民は、現在、永住資格を持つ一般・特別永住者(87万人)の約12倍となる。提案の概要は以下のとおり。

- \* 「移民法」の制定や「移民庁」の設置。
- \* 地方自治体に外国人住民基本台帳制度を導入し、在日外国人に行政サービスを提供しやすい態勢を整える。
- \* 入国後10年以上としている永住許可を「7年」に緩和。
- \* 帰化制度は「原則として入国後10年」で日本国籍を取得できるように改める。

なお、民主党若手議員連盟も2003年「1000万人移民受け入れ構想」を発表している。

## 【企業】 コンビニの外国人採用が話題に

ローソン中国人留学生大量採用 日本人より優秀だから？

コンビニ大手のローソンが2009年春の新卒採用で、中国人を中心とした外国人を大量採用すると発表した。(‘08/4-26)ローソンはアジアからの積極採用は08年から始めている。2008年春の新卒採用のうち10人がアジア人で、内訳は9人が中国人、1人がベトナム人。09年春には110~130人の新卒を採用する計画で、このうち30人~50人が中国人を中心としたアジア人になるという。08年の5倍の採用。中国人を中心に採用するのは、日本にいる留学生が圧倒的に多いからだが、同社が外国人の積極採用を決めたきっかけは、応募してくる留学生の能力が非常に高く、「落とすにはもったいない」という声が人事部門から上がっていたため。企業としての国際化、開かれた企業を標榜する中で、外国人採用の明確な企業方針を打ち出したのだという。

## 【学会・研究会】 <移民政策学会> 第1回研究会

2008年5月に発足した「移民政策学会」が第1回の研究会を開いた。

日時：2008年9月28日(日)14時~17時

場所：立教大学(東京・池袋) 司会：山本かほり(愛知県立大)

報告者：池上重弘(静岡文化芸術大) 「ブラジル人の生活就労実態と社会統合の課題  
- 静岡県と浜松市における質問紙調査から -」

平野裕子(九州大) 「EPAスキームにおける看護師導入の可能性と課題

- フィリピン及びインドネシアにおける看護関係者へのインタビュー調査から -」

【留学試験】 今後は日本語・英語のみでなく、中国語・韓国語でも実施(08・10)

レシピ提供

ゆうだいさんより



【材料】: 米・・・2合  
 鶏肉(もも/胸/ささみ)・・・150g  
 玉ねぎ・・・60g(中1/2個)  
 にんじん・・・50g ピーマン・・・2個  
 にんにく・・・(好みで)1~2片

【調味料】: ケチャップ・・・大さじ5  
 コンソメキューブ1個 バター大さじ2  
 ワインまたは酒大さじ2 塩・胡椒・少々

【作り方】: 洗った米はざるにあげ、30分置く。鶏肉は余分な脂を取り除き、一口大に切り、塩・胡椒で軽く下味をつけておく。  
 玉ねぎ、にんじん、ピーマン、にんにくはみじん切りにする。  
 の材料と水350CCと調味料を炊飯器に入れて、よく混ぜる。  
 あとは普通に炊くだけ。炊き上がったら出来上がり! の超手抜き料理

\*\*\*\*\*

子育ての慌ただしさのなかでも、家族に笑顔で「うん、おいしい!」ってってもらいたい晩ごはん。  
 このチキンライスなら、少々疲れていても、キッチンに立った勢いで作っちゃえるメニューだね。  
 そういえば、ダウンタウンの浜ちゃんが「チキンライス」で歌をつくってたっけ。知ってるかな?

チキンライスの歌

子供の頃 たまに 家族で外食~ いつも 食べていたのは チキンライス~  
 高価なものを たのめば 二度と 連れてきてもらえないような気がして~  
 親に気を使った あんな気持ち 今の子供に 理解できるかな~

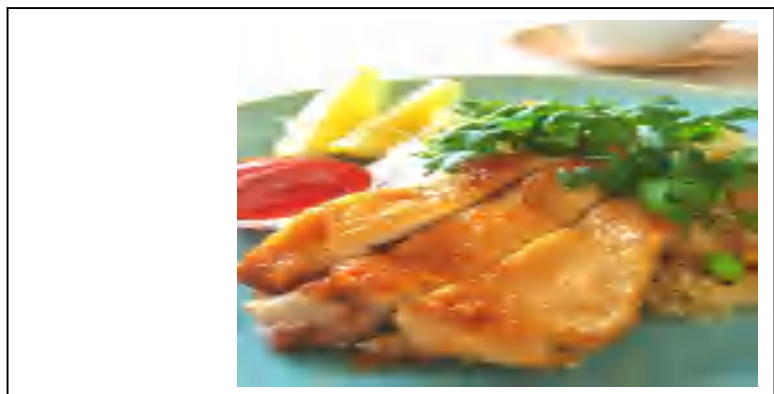
.....  
 作詞は松本人志で、作曲は槇村敬之。昔の大阪の街の風景が浮かんでくるような歌。

あれ? 写真はチキンライスじゃなくて、オムライスって? そう、もうひと手間かけようね

【シンガポール・チキンライス】

上のレシピに鶏肉、ナンプラーと醤油、チリソース、はちみつを加えるだけでこんなアジアな一品もできますよ。

春野菜もたっぷり使った  
 サラダもそえて







## 国際交流人材養成講座 地域社会と生活者としての外国人～多文化共生社会をめざして 大阪国際交流センター・大阪にほんごボランティアネットワーク 共催

日本語教育と深いかわりのある分野ではあるものの、日ごろ接点の少ない行政（国）自治体の施策・地域状況・学校教育・ボランティア活動など幅広く網羅した講座が昨年6月より今年3月まで開催されました。興味深いテーマなので、参加してみました。全出席とはならず、時々サボりましたが、参加コメントをつけてみました。

第1回 外国人として日本で生きるとは 6/19（木）外国籍住民の皆さん  
コーディネーター：多文化共生センター大阪 代表理事 田村太郎

外国人から見ると、日本社会はどうなのか。日本語をどう思うか、さまざまな立場、国籍の方から自分の体験やこれからのビジョンを聞きました。ある発言者の日本語はハイ・コンテキストだとの指摘に目からうろこでした。

第2回 多文化共生推進プランと大阪市 7/24（木）  
～総務省の地域の国際化施策について～ 総務省自治行政局国際室 課長補佐 渡邊浩之  
～大阪市の国際化施策、外国籍住民のための施策について～  
大阪市政策企画室国際化施策担当 市民局外国籍住民施策担当  
～「大阪」における多文化共生の取り組みについての提言」 報告～大阪国際交流センター

第3回 外国人住民の生活と相談 8/28（木）  
～多言語による生活情報提供の現場から～ 国際交流センター  
～永住・国籍取得、就労関係、婚姻などの国際業務の現場から 大阪府行政書士会

「行政書士」も近年、外国人からの相談が増加し、法的地位保全のため、深く関わり、熱心に尽力。入管申請などの交渉も日本語の困難な外国人の支えとなっている様子を紹介。入管法の研究もしながら、専門家の立場から法律の適正な運用を求め、積極的に活動している方でした。

第4回 入国管理と在留資格について 9/18（木）法務省大阪入国管理局 ほか

第5回 子どもたちの学校生活

10/16(木)

～小学校で学ぶ外国にルーツを持つ子どもたち～ 講師 新東三小中学校校長筒井博美

～中学校で学ぶ外国にルーツを持つ子どもたち～

講師 大阪市立阿倍野中学校 帰国した子どもの教育センター校日本語・適応指導担当 坪内好子

第6回 学びの場を求めて

11/6(木)

～夜間中学校と外国人住民～ 講師 東大阪市立太平寺中学校夜間学級講師 中谷紀美子

～高校入試と高校での学び～ 講師 大阪府立門真なみはや高校 渡日生プロジェクト 大倉安央

中谷さん:夜間中学誕生の歴史、教育行政の変遷をはじめ、夜間中学に学びにくる生徒の顔ぶれ、学びへの姿勢などもてねにに触れました。教室は識字や知識を得るだけでなく、その人の人生をもう一度輝かせる機会を与えたことも。文字通り、生涯教育の場なのだと感じました。

なみはや高校:大倉さん 帰国子女や外国人生徒への柔軟で斬新な試みの学校。学生たちの目線に合わせて教える姿勢は私たちの日本語教育に通じるものがありました。

第7回 外国人住民と日本語(1)

12/11(木)

～中国帰国者への日本語教育と生活～

講師 近畿中国帰国者支援・交流センター 教務主任 氏原庸子

～「研修生と就労・就職のための日本語」～ 講師 海外技術者研修協会 AOTS

日本語教育センター長 春原憲一郎

氏原庸子さん:戦後中国から帰国した方たちが定着にいたるまでの支援状況。すでに引退した年齢の一世が熱心に勉強する姿が写真で紹介され、印象的でした。

春原憲一郎さん:外国籍の市民が増えていく中で、ついに「移民」という言葉が公然と口にされるに至った経緯をユーモアを交えて辛口に批評。効いていた人たち全員が理解を深めたのは確実です。

第8回 外国人住民と日本語(2)

1/15(木)

～文化庁の日本語教育施策～

講師 文化庁文化部国語課 専門職(日本語教育) 中野 敦

～大阪市における識字・日本語事業～

講師 大阪市教育委員会事務局生涯学習部担当係 松原俊幸

第9回 さまざまな文化の出会い

2/19(木)

～ボランティアで開催されている日本語教室～ 大阪市内の日本語教室の皆さん

第10回 岐路に立つ日本

3/5(木)

～外国人受け入れ問題に関する経団連の考え～ 講師 社団法人 日本経済団体連合会

産業第一本部長 井上 洋

～多文化が育つ国へ～多文化共生センター大阪 代表理事 田村太郎 (コーディネーター)

井上さん:経団連といっても経済人でなく、組織のシンクタンク的な仕事に従事。少子高齢化が招く未来社会の衰退は必然とみて、そのため外国人雇用の条件整備をと、積極的なプランナーぶりで説明。

田村さん:日本だけが少子化でなく、中国も、台湾も韓国も同じ。関西の国際化は東京の次の2番じゃない、3番だよ、と関西人の明るさと自在な表現でこれからの問題解決は国の枠内だけでは限界、国境、国籍の違いを越えて協力、支援できる関係づくりが必要と明解な主張でした。